

平成 27 年度国立大雪青少年交流の家第 3 回施設業務運営委員会事業部会議事要旨

日時：平成 28 年 3 月 2 日（水）14:00～14:40

場所：国立大雪青少年交流の家 第 3 研修室

運営委員出席者：大島部会長，成田委員（浜田委員代理），永澤委員 計 3 名

欠席者：山根委員，目黒委員，坂東委員，浪岡委員，植田委員 計 5 名

大雪青少年交流の家

出席者：阿部所長，松浦事業推進室長，村澤企画指導専門職，柴田企画指導専門職 計 4 名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間及び資料確認，欠席委員の報告。

○以下部会長による進行

【議題 1 について】

○部会長

議題 1 「平成 27 年度事業部会業務実績報告及び自己点検・評価」についてです。事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料 1 をご覧ください。平成 27 年度の事業部会計画です。4 番の計画に記載されている件名にそって，一番右側の列に成果目標が記載されています。その自己点検・評価の案を提案します。

資料 2 「教育事業・研修支援事業等自己点検・評価表（案）」をご覧ください。年度末評価の事務局案です。11 月に実施した中間評価から変更した箇所を朱書きにしました。先週末に開催された「子供クロスカントリースキー教室」「冬のレクスports 祭典」等の教育事業を含め中間評価の段階で終了していなかった業務等の評価について更新した内容を一番右側に朱書きにしました。

この根拠資料が資料 3 です。資料 2 と照らしてご覧ください。（概要説明）

○部会長

ただ今，事務局から平成 27 年度事業部会業務実績報告と自己点検・評価について説明がありました。ご意見，ご質問はありますか。

□委員

自己点検・評価について意見があります。事業部会の 2 - 3 「利用団体アンケートの満足度向上」の自己評価が B となっていますが，利用団体アンケートのどの項目においても「満足」が約 85%，「やや満足」が 15%となっており，利用団体からは最高の評価を得ているのではないかと感じます。評価が少し厳しすぎないでしょうか。

●事務局

全国的には「満足」のパーセンテージがさらに高い施設があり、初めて利用する団体への案内方法の工夫やリピーターになっていただくための手立てなど、現状に満足しないで取り組む余地があると考えております。

○部会長

平成27年度自己点検評価について事務局案を承認してよろしいでしょうか。

□委員

(全員異議なし)

○部会長

承認されましたので、事務局の皆さん、よろしく申し上げます。

【議題2について】

○部会長

続きまして、議題2「平成28年度運営計画(案)」についてです。事務局から説明をお願いします。

●事務局

資料4をご覧ください。2月24日に機構本部から示された平成28年度事業方針です。第3期中期目標・中期計画の初年度となる平成28年度年度計画を踏まえ、教育事業部から示されたもので、ポイントは4点あります。

1点目は、2.(1)②地域力向上事業(旧モデル事業)です。地域の教育力を向上させるプログラム開発を実施することとしております。この点については、大雪の事業にも関係がありますので、のちほど、計画(案)で説明します。

2点目は、2ページの(2)③体験活動推進員養成研修の試行です。大雪が先行実施している取組ですが、他施設では未実施のようです。第3期中期目標のスタートに合わせて実施することになりました。

3点目は、3ページの(3)青少年の国際交流の推進です。アジアの青少年との交流事業や留学生を交えた事業など、これまで大雪が実施している取組が明記されました。

4点目は、(4)③幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進です。これも、大雪は幼稚園や保育園等への出前事業を実施している取組が明記されたこととなります。

続きまして、資料5をご覧ください。平成27年度の施行実施を踏まえ、平成28年度から施設の研修支援等に関する自己採点表を本格実施することになりました。

評価の内容は、研修支援の質の向上、広報活動の促進、利用実績の向上、教育事業の充実、管理運営の5項目、35事項です。

平成27年度の大雪の施行実施では、総合評価が81点という評価でした。今後、課題となっている点について分析し、各部会が連携しながら広報活動や利用者サービスの向上に取り組んでまいりたいと思います。

続きまして、資料6をご覧ください。機構本部から示された事業方針や自己採点表を踏

まえて、平成28年度の事業部会計画（案）を作成しました。朱書きで記入されている箇所が改訂点です。

「教育事業等の企画運営に関すること」では、②募集定員の充足、③募集開始時期、④体験活動推進地域モデルプログラムの開発の3点を改訂しました。②と③は先ほど説明した自己採点評価の課題となっている点です。④は、釧路町を体験活動推進地域として連携に力を入れていることから、他地域のモデルとなる取組として支援していきたいと考えています。

「研修支援事業に関すること」では、②の学校への事前・事後指導の実施です。これまで学校の宿泊研修の事前指導を行ってまいりましたが、自己採点評価の項目では事後指導も求められていますので、来年度に新たに取組んでまいりたいと考えています。

続きまして、資料7をご覧ください。平成28年度の教育事業一覧です。

ポイントは、4点です。

1点目は、2番の「地域力向上事業」です。これまでモデル事業として実施してきたもので、大雪では小学生を対象にした約10日間の長期キャンプ事業「ワイルドライフキャンプ」がこれに該当します。

平成28年度にスタートする第3期中期目標では、長期の集団宿泊体験や課題を抱える青少年を対象とした体験活動は、教育的効果が高いとされていることから、ナショナルセンターとして、地域のニーズを踏まえ、地域と連携して関連する取組を推進していくことが求められるとし、青少年教育に関する地域力向上等のためのモデル的事業の開発を行っていくことが示されました。

機構本部としては、他の国立施設、周辺の公立の青少年教育施設等への普及及び活用を視野に入れるとしていることから、次年度、大雪でも企画の段階から他施設と連携して事業を実施する計画です。

2点目は、8番の「国際交流事業」です。平成26年度、27年度と2年続けて文科省委託事業に申請し採択されました。概ね3年程度を1サイクルとして実施するとしていることから、平成28年度も文科省委託事業に申請手続きをしております。

これまでの2年間、事業部会の皆様には企画委員としてお力添えをいただき、感謝申し上げます。お陰様で質の高いプログラムを開発することができました。平成28年度はこのノウハウを生かしながら、よりコンパクトでインパクトのあるプログラムを目指してまいります。なお、企画委員については、本部国際企画課からのアドバイスを受けて、プログラムの運営に直接かかわっていただける方に絞ってコンパクトな構成を検討していますのでご理解ください。

3点目は、「子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業」です。リレーション事業は、子どもゆめ基金の普及啓発を図ることを目的として、第2期中期目標期間の初年度に開始し、本年で5年を迎えました。この間、リレーション事業による各施設の取組により、助成金の申請は大幅に増加し、子どもゆめ基金の普及啓発を図るという所期の目的は概ね達成されつつあります。他方、リレーション事業は、①公募を前提としないため競争性の観点、②外部有識者による選考を経ないため透明性・客観性の観点で課題を有しています。このような状況を踏まえ、第3期中期目標期間に向け、この2つの課題を解消するよう大きく見直しを行うことが機構本部からしめされました。具体的には、リレーション事業を廃止し、その予算の一部を地域ぐるみ事業へ充当し統合することになります。そのため、平成28年度については、大幅な予算の減額により、資料7の10～13番、4つの事業に絞ります。平成29年度は予算額が0になることから、地域ぐるみ事業への移行も考慮し検討してまいります。

4点目は、開所50周年記念事業（寄付金）の実施です。北海道青年団体協議会、高齢者大学、十勝岳山麓ジオパーク推進協議会、北海道青少年教育施設協議会等と連携した事業として、18～21番の4事業を計画しています。全て開所50周年へ向けた寄付金を予算として充てて、お世話になっている地域へ還元したいと考えています。

具体的な内容については、第3期中期目標が決定した後になるものもあるかと思いますが、4月から実施する内容もあることから、計画（案）を提案させていただきました。ご審議の程、よろしくお願いします。

○部会長

ただ今、平成28年度の運営計画案について事務局から提案がありました。どの部分からでも構いません。ぜひ御意見を出してください。

□委員

「ワイルドライフキャンプ2016」において、小学3年生～中学生までと対象者の幅がかなり広いですが、何か意図はありますか。

●事務局

少子化により核家族が増え、兄弟姉妹の関係が少なくなった現代社会において、兄弟姉妹によるかくれた教育力を再現するため、異学年でグループ構成をする意図があります。

□委員

今年度実施した「富良野国の子寮デイキャンプ」はどのような事業だったのでしょうか。

●事務局

夏に教育事業として実施した「体験の風キャンプ」とは別に、冬休みに日帰りで研修支援事業として受け入れました。スノーシューとクラフトの体験活動を行いました。生活・自立支援事業としては、来年度、新たな児童養護施設と連携し、教育事業として実施する予定です。

□委員

自己採点表について。来年度より新たな取組として実施するというのでしょうか。

●事務局

今後は、利用者数や稼働率とあわせて、利用者の満足度を上げることがより一層求められます。当交流の家では「利用実績の向上」の部分について特に力を入れていく必要を感じています。

○部会長

事務局から補足や確認などがあれば話してください。

●事務局

貴重な御意見をいただき、大変にありがとうございました。

1. 本日の部会の議事録をまとめ、HPに情報公開する予定です。
2. 皆様から出された御意見等を総括した上で、次年度の準備を進めてまいります。
3. 運営計画の全体に係る内容については、この後の全体会で説明があります。積極的なご意見をお願いします。

○部会長

本日は、長時間にわたり協議いただきました。ありがとうございました。

●事務局

(閉会宣言)